

神によるスンナの保持 (6/7) : ハディース探求の旅

:

明:

イスラームによって知 得の重要性が されることにより、多くのムスリムは 旅に出て、言者ムハンマドの言行の 集と をしました。

目:[事言者ムハンマド彼の言 に して](#)

より: ジャマ ルッディ ン ザラボゾ (2011 IslamRelig

7 Jun 2011

集日 27 Jun 2011



スンナの保持方法として れたもう一つの 象は、情 源を し、より多くのハディースを 集す
るためのハディース探求の旅でした。世界中のあらゆる宗教的共同体において、イスラ
ム共同体だけが、二つの方法によって元来の 教えの数々を保持し、その 失を免れる
という祝福を受けています。これら二つの方法の一つとは、既に言及されたイスナド
の使用によるもの、そして二つ目はこれから述べられるハディース探求の旅によるもの
です。ムスリムたちの に沸き起こった宗教的知 を求めようとする い 望は、 に言者（神
の慈悲と祝福あれ）の言 を集め、 するためだけに彼らに数ヶ月もの旅をさせたのです
。こうしたハディースへの献身と、世における大きな 犠をも わない姿 が、言者のハディ
スの完全なる保持に大いに 献したのです。M ズバイル スィッディ キ は述べています:

初期の例を知ることにより、ハディ ス探求の旅に するはっきりとしたイメ ジが いてく
るでしょう。 には、ハディ ス探求の旅は 言者の 代には既に始まっていました。当 から
人々は特定の にして 言者に ねるために、マディ ナの外からやってきていました。 には
、 言者の代理人によって 告されたものを 言者本人に しに来る 合すらありました。アル
＝ブハ リ とムスリムの 承集の中では、教友たちがそういった出来事を待ち望んでいた
ことを て取ることが出来ます。なぜなら教友アナスが述べたように、彼らは 言者に多
くの をすることを禁じられていたため、 明なベドウィンが 言者を れて特定の をしてく
れることを期待していたのです。

以下は、 言者に して耳にしたハディ スを するために旅をした教友たちの例です。

イマ ム アル＝ブハ リ はサヒ フの中で、ジャ ビル ブン アブドッラ が、アブドッラ ブン ウ
ナイスによるたった一つのハディ スを手に入れるため、一ヶ月の旅をしたことを して
います。アッ＝タバラ ニによって されたバ ジョンでは、ジャ ビルがこう言ったとされ
ています：“私は について、 言者に するハディ スを いていたが、それを（ 言者から直
接） えていた人物はエジプトにいたため、私はラクダを 入してエジプトへと旅立った
…” [5](#)

また教友の一人アブ アイユ ブは、ウクバ ブン アムルにたった一つのハディ スについて
ねるため、遙かエジプトまで旅をしました。彼はウクバに、この特定のハディ スを 言
者から直接 いたのは、彼とウクバしか残っていなかったことを告げています。彼のエ
ジプトでの任 であったそのハディ スの を えると、彼はマディ ナに りました。

また、ある教友の一人はファダ ラ ブン ウバイドのもとに旅をしました。そして彼は、
ファダ ラを ねるために来たのではなく、ただ彼ら双方が いたとされるハディ スのこ
を ねるために来たのであること、そして教友たちはファダ ラがそのハディ ス全文を保
存していることを望んでいるのを えたのです。[6](#)

これらの教友たちの逸 から、彼らがハディ ス探求の旅に出たのは基本的に二つの理由
からであると 付けられます：

(a) 彼ら自身が言者から直接くことの出来なかったハディースを、教友仲からき出すため。すなわち、そうすることによってハディースの知をやすため。

(b) 彼ら自身、または他の教友たちが言者から直接いたハディースの内容、そしてその意味を するため。そのため、教友たち自身も常に を 返し、彼らの えるハディースの性を保 していたのです。

教友たちの弟子(タビウン [追者たち] と呼ばれる者たち)の代になっても、ただ言者のハディースをくためだけ、あるいは するためだけに旅をする 望は消えうせませんでした。マディナは言者が年に渡って生活したスンナの祥地でもあり、教友たちの多くは言者逝去もそこに住み けたため、知探求の中心地でした。しかし にはある特定のハディースが えられていれば、そこがどこであれ「旅行者」の目的地となったのです。

そのような例には枚の暇がありません。アル=ハティ ブアル=バクダディは、ハディース探求の旅に する著作を残しています。アッ=リヒラ フィ タラブアル=ハディース(「ハディース探求の旅」と されてた です。この が、ただ にハディースを学ぶために旅した学者たちに することだけを取り上げているわけではないことは、この著作への心をさらに高めます。ハディース探求の旅はほぼすべての学者たちによって、イスラムの史を通して行われていたのです。 、もし学者が旅をしなければ、それは奇妙なことであるとさえ なされていました。つまりこの本は、 集を行ったヌル=ッディン イトルにより指摘されているように、たった一つのハディースを求めてなされた数々の旅について かれたものなのです。[7](#)

Footnotes:

[1](#) M. Z. Siddiqi, Hadeeth Literature: Its Origin, Development, Special Features and Criticism (Calcutta: Calcutta University Press, 1961), p. 48.

[2](#) サヒフ ムスリム

3 サヒフ ムスリム

4 更なる例を知りたいお方は、この文献をご参照ください: Akram Dhiyaa Al-Umari, *Buhooth fi Tareekh al-Sunnah al-Musharrifah* (Beirut: Muassasah al-Risaalah, 1975), pp. 203f.

5 イブン ハジャルはこのバ ジョンの 承 路を良好のものであるとしています。参照: Ibn Hajar, *al-Baari*, vol. 1, p. 174.

6 この出来事はアブ ダ ウドによって されています。

7 See Noor al-Deen' s introduction to al-Khateeb al-Baghdaadi, *al-Rihlah fi Talab al-Hadeeth* (Beirut: Daar al-Kutub al-Ilmiyyah, 1975), p. 10.

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/602>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。